

2025（令和7）年4月 NMC 月例会報告

- | | |
|--------|------------------------------------|
| 1.開催日 | : 令和7年4月23日(水)13:30～15:30 （質疑応答含む） |
| 2.開催場所 | : 阿佐谷地域区民センター 3階第4集会室 |
| 3.演題 | : 『宮沢賢治の世界』短歌、詩、ものがたりを楽しむ |
| 4.講師 | : 朗読家 野口田鶴子氏 |
| 5.参加者 | : 16名（非会員 1名含む） |
| 6.内容 | : |



オペラ歌手から朗読の世界に轉身し、郷土の大先輩、宮沢賢治作品の盛岡弁での朗読をライフワークにしている野口氏の朗読で、宮沢賢治の世界を楽しみました。

公演にあたり、理事長挨拶、講師紹介ののち、公演を開始しました。

講師から冒頭、宮沢賢治に関する、年表、雨ニモマケズの直筆、両親や妹・弟あての遺書、等の資料の説明があり、引き続き公演を始めました。

最初に、**短歌では**、盛岡の初夏（6月中旬）の風物詩、チャグチャグうまっ子の衣装と鈴の音とともに、「ちゃんがちやがうまこ」ほか八首を朗読しました。

次に、**詩では**、「春と修羅」の中から、妹トシの臨終を詠んだ「永訣の朝」と、花巻農学校教師時代の教え子への農事指導を詠んだ「あその田はねえ」を朗読されました。

最後に、ものがたりでは、「よだかの星」を熟演されました。

公演の最後には、参加者全員で「雨ニモマケズ」を音読して講演を終了しました。

質疑応答では、盛岡弁についての質問があり、南部藩の殿様が、京都や近江商人を招いて、優美な言葉を盛岡城下で広めたとの見解でした。したがって、盛岡弁は、南部藩領地の中でも特異な方言との説明でした。代表的な例として、「あのなはん」（間投詞で、あのね）を紹介していました。また、講師の話す盛岡弁については、誇張せずに、自然に語るようにしていると説明がありました。

日本語の美しさを再認識したという感想や、「雨ニモマケズ」を公演者に朗読してほしかったとの意見もありました。



（写真：小川（啓）/宮崎、文責：細越）

出席者（敬称略、順不同）：

小川(啓)、石村、高橋、小川(俊)、内田、小池、小高、後藤、小林ご夫妻、角田、永瀬、松崎、宮崎、矢口、(司会)細越

以上